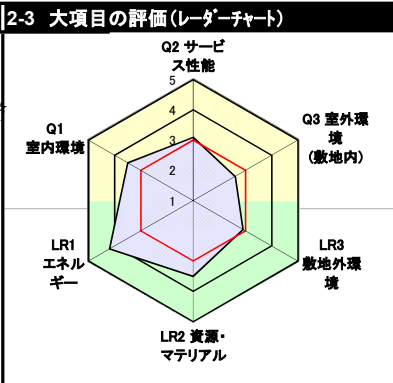
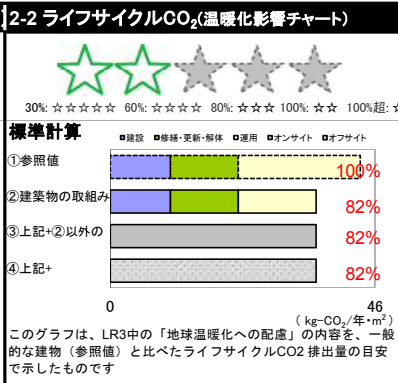
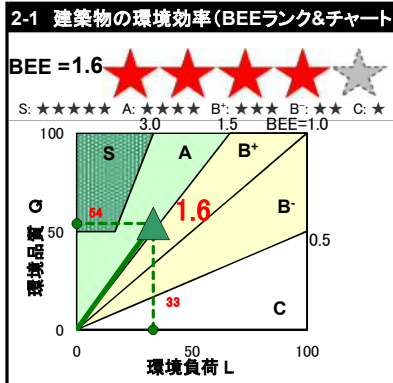
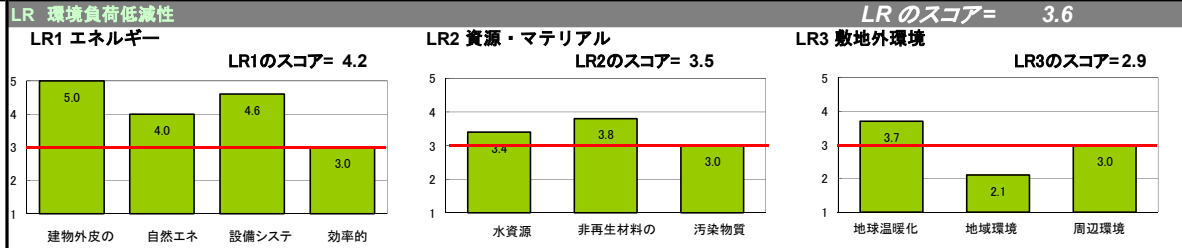
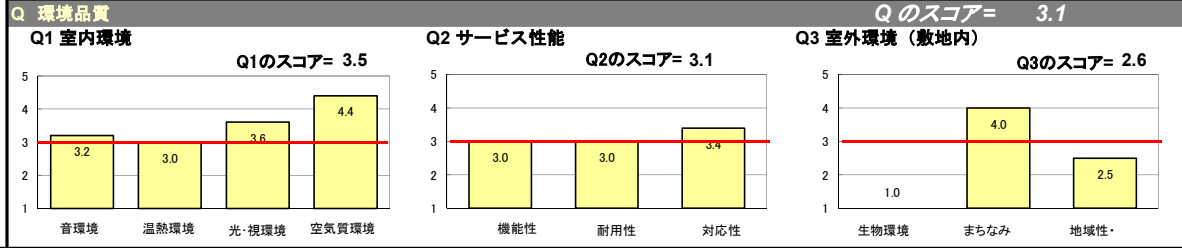


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新城有教館高校総合学科棟	階数	地上1階
建設地	愛知県新城市桜洲中野合併地内	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	250 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年7月 予定	評価の実施日	2019年7月20日
敷地面積	4,131 m <sup>2</sup>	作成者	加藤知徳
建築面積	588 m <sup>2</sup>	確認日	2019年7月20日
延床面積	557 m <sup>2</sup>	確認者	加藤知徳



### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)



### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.7	③敷地内の緑化	1.0
②資源の有効活用	3.5	④地域材の活用	3.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

外構緑化指数: 5.0 %  
建物緑化指数: 0.0 %

〈外装材に使用した地域性のある材料〉  
杉材  
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉  
なし



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.5	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.2	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.5	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														4.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														0.71	
2 外皮性能														1.00	
3 ソーン別制御性														-	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														0.29	
3 光・視環境														3.6	
3.1 昼光利用														4.2	
1 昼光率														0.30	
2 方位別開口														5.0	
3 昼光利用設備														0.60	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														0.40	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														0.30	
4 空気質環境														4.4	
4.1 発生源対策														0.25	
1 化学汚染物質														5.0	
4.2 換気														5.0	
1 換気量														1.00	
2 自然換気性能														3.3	
3 取り入れ外気への配慮														0.30	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視														0.33	
2 喫煙の制御														4.0	
Q2 サービス性能														0.50	
1 機能性														0.30	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														0.40	
2 高度情報通信設備対応														-	
3 バリアフリー計画														-	
1.2 心理性・快適性														3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														0.50	
2 リフレッシュスペース														5.0	
3 内装計画														0.50	
1.3 維持管理														1.0	
1 維持管理に配慮した設計														0.50	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.31	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														0.48	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														0.80	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														0.20	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.3	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														0.33	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														0.23	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														0.23	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														0.09	
5 通信・情報設備														3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				3.4	0.29			-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高 4.0m以上	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.21	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			-	2.6
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	自然や街なみに調和する外観、軒天に地域杉材を使用	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.6
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.67	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用			ホールにハイサイド窓を設置	4.0	0.20			-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	4.6	0.30			-	4.6
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型便器を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			-	3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生舗装材、再生砕石、コンクリート二次製品、ビニルシート、木質セメント	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内外装共に乾式材料を採用、内装材に地域杉目板を採用	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00			-	
3 冷媒				-	-			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出量が参考値と同等(82%)	3.7	0.33			-	3.7
2 地域環境への配慮				2.1	0.33			-	2.1
2.1 大気汚染防止				-	-			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.67			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.33			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.60			-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.20			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.20			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>3.0</b>
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			杉材
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 新城有教館高校総合学科

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 学校全体で既設建物と外壁仕上げ材、色調を統一し調和を図り、屋根を地域をイメージする形状とし地域にも調和するデザインとした。 また、内壁の羽目板、ルーバー天井等地域産の木材を使用する様努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 内装材にすべてF☆☆☆☆の材料を使用し、化学汚染物質発生の低減に配慮した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 構造体をラーメン構造とし、かつ階高に余裕を持たせ、改修等にフレキシビリティに対応できるよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の植栽を保護するよう建物配置等に配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋根面に外断熱仕様を採用、外壁面も断熱仕様とし、熱負荷の低減を図った。 また、将来空調の設置可能な部屋の開口部はLow-e複層ガラスを採用し、更なる熱負荷軽減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	舗装材、外構コンクリート二次製品、路盤材にリサイクル品を採用した。また床シートなどエコマーク認定商品の採用に努めた。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 透水性舗装を採用し、敷地外への雨水流失抑制に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。